

樹種	本数	萌芽長平均	樹種	本数	萌芽長平均
アラカン	63	1.11 ± 0.10	ツバキ	11	0.94 ± 0.24
コナラ	22	1.27 ± 0.15	ヒサカキ	32	0.99 ± 0.12
タブ	16	0.86 ± 0.20	マツ	75	0.62 ± 0.02
ネズミモチ	31	0.92 ± 0.08	その他	30	

第 VII 区 (中林区, B) 0.0014 ha

1.) 設定前の状況は前区同様

2.) この区に対する取扱は前第 V 区同様とした。現況は下表の通りである。

樹種	本数	萌芽長平均	樹種	本数	萌芽長平均
アラカン	58	1.18 ± 0.12	ヒサカキ	44	0.97 ± 0.10
コナラ	8	1.44 ± 0.51	マツ	105	0.49 ± 0.03
タブ	22	1.17 ± 0.20	その他	60	
ネズミモチ	45	1.02 ± 0.11			

IV 管理及測定

毎年一定時期に生長量を測定すると共に不良樹種萌芽の抑制並びに雑草、蔓茎等を除去し、樹種推移の状況を検討する予定である。

宮崎地方シイ、カシ天然生林の施業

シイ、タブの伐出に就て (4)

宮大農学部 三善正市、緒方吉箕

宮崎地方シイ、カシ天然生林で優良樹種(カシ類)乏しき林分は今后樹種の改良を図るべきであるが、其の方法の一として択伐的取扱により優良樹種を残し文が生長を促進し優良樹林への誘導が考へられている。其際択伐の対象となるシイ類其の他は優良樹より径級大、樹高高く伐木及塩枝集枝の際残存木の損傷多く其の後の成林が懸念されるので次の二林分で文に関する調査を試みたのである。

次表の如く択伐率は夫々68%、74%で伐木並材の隣損傷を受けたものは残存木(材積)に対し54%及12%(何れも軽傷のものは含まない)となり前者はその被害甚だしく此の種林分では径級の大なるものを択伐することは相当慎重なるを要し、可及的林木25年程度迄に択伐を実行することが更新(萌芽)とも併せ考へ賢明であると思ふ。次に同時に択伐の伐木並材功程を皆伐の場合のそれと比較してみたところ12.7%の差異が生じたが之は主として附帯作業たる懸木、送木、及移動による時間の増の結果である。

調査地	面積	林分	径級範囲	伐木数	並材積	伐採木		被害木		被害内訳				
						木数	材積	木数	材積	押倒	支障	折損	弯曲	計
田野演習林 105	ha 0.1	年 38	D.B.H cm 1~26	647	m ³ 18.7	66	m ³ 12.7	354	3.1	27	38	42	245	354
9c	0.1	17	1~12	1293	7.3	551	5.4	113	0.2	14		11	108	133

作業の種類	主体作業			附帯作業	
	伐倒	玉切	技落	運木懸木	移動其他
時間(%)	11.3	29.4	5.5	12.7	41.1